

日大で裏口入学斡旋疑惑「アメフト部の推薦枠使う」元主将が5000万円詐取 学生ア
メリカンフットボール界の名門・日本大学アメフト部の元主将が、「スポーツ選手の特別枠を
使って歯学部に入學できる」として都内の医療法人会長(49)から工作資金として約五千万円を
受け取ったまま行方不明になっていることが十五日、明らかになった。元主将は周辺の関係者に
「過去二、三人を特別枠で入学させたことがある」とも話していたという。この会長は近く詐欺
罪で元主将を捜査当局に告訴する。

医療法人会長によると、平成六年夏ごろ、茨城県高萩市内の開業医から「長野県内の私大歯学部
を四年で中退した息子(34)を日大歯学部へ編入させてほしい」と頼まれ、現金四千万円を預か
った。

同年十月ごろ、大阪府内の不動産業者に相談したところ、「実績がある男」として元主将を紹介
され、「四年生から編入できる」との約束を取り付けた。その際、元主将は「アメフト部の入
学枠を使う。枠の売買では実績があるから大丈夫だ」と説明をした。

元主将は工作資金として現金五千万円を要求したため、会長は平成七年三月に現金二千万円を、
同年五月に三千万円を渡したという。他にも接待費用や諸経費として一回二十万円-五十万円の
計八百五十万円を数回に分けて元主将側に渡したとしている。

同大学の編入試験は毎年十月に実施されるが、試験日が迫って元主将側は受験に関する指示をせ
ず、「特別枠だから試験などいらぬ」等と話すだけで、書類も提出させず、大学関係者に引き
合わせることもなかったという。

その後、この息子は入学できないことが分かり、会長はあっせん費用の返却を要求したが、「あ
っせんを断るのだから金は返さない」と否定したまま、元主将の行方はわからなくなった。

日大アメフト部によると、元主将は在学中、全日本メンバーに選ばれたこともあり、選手とし
ては優秀だった。活躍が認められ、卒業時には総長賞も受賞した。大阪府出身で、卒業後は大阪
を拠点にスポーツ用品の納入や絵画販売をし、臨時のコーチとして練習に顔を出していたという。
会長は「裏口入学を頼んだことは本当に恥ずかしい。だまされた私も悪い」としながらも、「人
の弱みに付け込んだ」として近く元主将を捜査当局に詐欺罪で告訴する。

日大広報部は産経新聞の取材に対し「そのような事実があれば、しっかりと調査をしたい」
と話している。